

【ATC道標⑥】

今日は、アークテックコム(株)にて技術書類の作成を行っています豊原 信です。

Tel : 050-6864-6201
Fax : 050-6864-6202
E-mail : m.toyohara@arcteccom.jp

原理原則の追求が必要

今月は発行が遅れてしまいました。悪しからずご容赦ください。弊社の「道標」の続きの紹介を致します。

心を使って経営する

心をベースにする考え方に、「因果応報の法則」に基づいた、お釈迦様の言葉「この世界は心に導かれ 心に引きずられ 心の支配を受けている…」があります。また人類の経験を統計的に纏めた真理として「心で思ったことは実現する」という考え方もあります。どちらにしろ、先ずは心で思うこと、本当に美しい利他の心で思うことです。

経営に於いても、本当に相手の為や社会の為に成ることを考え実践することが大切です。

公明正大に利益を追求する

会社の経営の目的は、取引相手の為に成るように考え取

引することです。同時に全従業員が安心して平和に幸福に人生を送れるようにすることです。

そして会社は利益を上げなければ成り立ちません。利益を上げることは従業員の幸福を追求することになり、恥ずべきことでもなければ、人の道に反したことでもありません。

自由競争の結果で決まる価格は正しい価格であり、その価格で堂々と商いをして得られる利益は正しい利益です。厳しい価格競争のなかで合理化を進め、付加価値を高めていく努力が利益の増加を生むのです。

投機や不正で暴利を貪り、一攫千金を夢見るような経営がまかり通っているこの世の中ですけれども、これは商売ではありません。商売は公明正大に、事業を通じて正しい利益を追求していくことです。

また、「自由市場において、競

争の結果で決まる価格は正しい価格」とあります。中小零細企業を経営していると、自分たちだけが独占でやっている事業というのは、まずありません。必ずと言っていいくらい、厳しい競争があり、その中で値段が決まります。

厳しい競争の中で値段が決まるということは、そんなに儲かると言えるほど利益を上乗せできるわけがないということです。もちろん、独占企業であるとか、いわゆる政府の保護などがあって、特別な利益を得られるような事業もありますが、自由市場のもとで厳しい競争をしている中小零細企業の場合には、不当な利益を得ることはまず無理です。たとえばぼろ儲けができるような事業があったとしても、必ず、すぐに競合相手が出てきて値段は下がっていきます。自由競争の中で価格が決まるのですから、そうやみくもに儲かるような商売があるわけがないのです。つまり、リーズナブルで

(道理に合った)、適正な利益しか得られないようになっていくわけですね。その適正な利益をコツコツと努力して、少しずつ積み上げていった結果が、企業の利益というものなのです。

原理原則に従う

人間の責務とはと何か考えても中々気付きません。誰も教えてくれませんし、残念ながら賢人と言われる人々の言葉から未だ捉えることが出来ていません。恐らく宇宙の進化 (Evolution) と向上 (Elevation) 発展することを手助けすることではないかと推測します。

参考になるのが、西郷南洲の「敬天愛人」に謳われているように、人間が生きていくとき「人として正しいことを正しい方法で貫く」ことかと思えます。簡単に言い換えると「欲張るな」「嘘を付くな」「人を騙すな」「人に不快な思いをさせるな」です。これが原理原則になります。

日々の人生を送るのに、すべてのことを原理原則に従って判断し、筋の通った、道理に合う、世間一般の道徳に反しないものであれば長続きするはずですね。

我々は、いわゆる一般の常

識というものに頼ることはしません。「たいていの会社ではこうだから」という常識に頼って安易な判断をしてはなりません。

組織にしても、財務にしても、利益の配分にしても、本来どうあるべきなのか、ものの本質に基づいて判断していれば、いまだかつて遭遇したことのない新しい経済状況にあっても、判断を誤ることはありません。

この中に「いまだかつて遭遇したことのない新しい経済状況」とありますが、どのような環境に置かれても、判断を誤ってはいけません。経営者は、世間一般の道徳に反することなく、人間として何が正しいのかという判断基準で物事を判断していかなければならないのです。

つまり、どんな時代になろうとも、「人間として正しいものは何なのか」ということを基準として判断をしなければならぬ、それを「原理原則に従って判断する」と言います。

※2026年07月号に続きます。

豊原 信